

S30からRZ34までフェアレディZを語り尽くす

FAIRLADY Z

MAGAZINE

【フェアレディZマガジン】

AUTO MESSE
AMWW
WORLDWIDE

フェアレディZインタビュー

あなたは何故

フェアレディZに惹かれるのか

レーシングドライバー『松田次生』の場合

レースアンバサダー『楓 紗希』の場合

TUNING DEVELOPMENT

ニッサンの両雄

柳田真孝&星野一樹

俺たちが理想とする

RZ34スタイル

標準モデル／バージョンST／NISMOの違いを検証!!

RZ34徹底比較

まだまだ魅力いっぱいZ34を上手に乗るコツ

Z34を長く乗るためのメンテナンス術

研ぎ澄まされたボディフォルムがよりスポーティに変身

Z AERO COLLECTION

NISMO アンバサダー

ロニー・クインタレッリが語る

RZ34の魅力

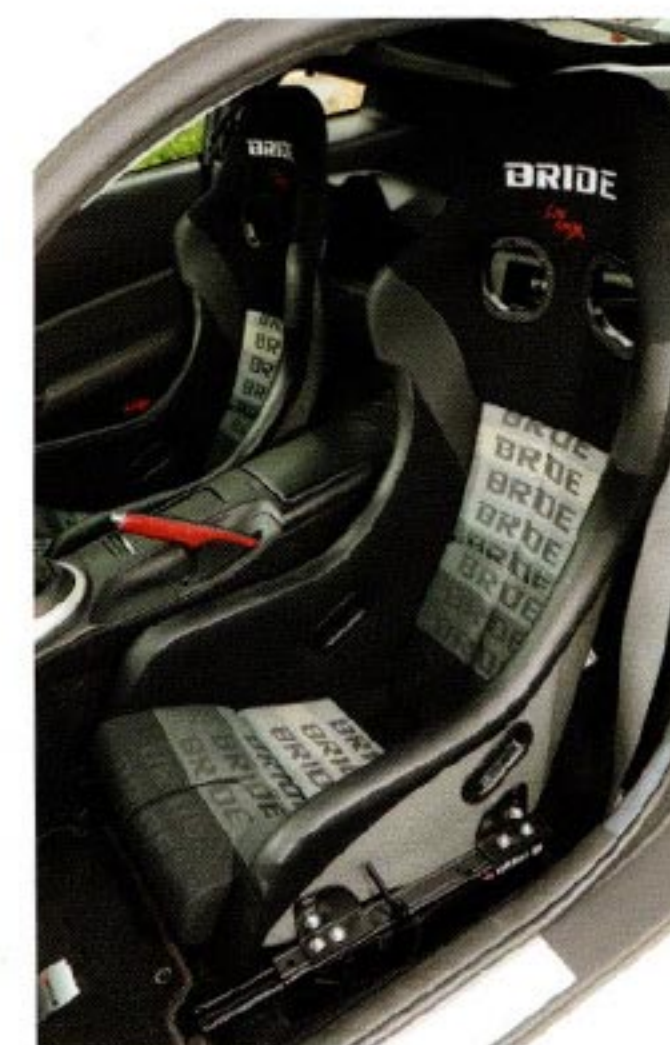


インテリアはステアリング/シフトノブ/サイドブレーキに採用されたレッドレザーがVersion NISMOとの識別点。松田の愛車はノーマルをキープしている



勝つために生まれた特別な3.8ℓユニット

スーパー耐久シリーズのST1クラス(当時)で勝つために開発された専用エンジン。市販車に搭載されるVR35HRエンジンをベースに、ストロークを7mm伸ばして3.8ℓまで排気量を拡大。ピストン/コンロッド/クランク/カムシャフトなども専用設計品が奢られた。出力は37ps/4kg-mアップの350ps/40.5kg-mを発揮。300台限定でシリアルナンバーも刻印



カスタムはタイヤとホイールをADVAN Racing BEYONDとADNAN NEOVA AD09に交換。足まわりにはNISMO仕様のオーリンズ車高調を組み、インテリアはBRIDE ZETA IVを運転席と助手席を装着する程度。ノーマル部品も保管する



NISMO 400Rと肩を並べるコンプリートカーの最高峰



「レーシングカーに使われているのと同じエンジンを搭載したコンプリートカーながらSTD仕様プラス約100万円のプライスはまさにバーゲン。トルクが豊かで乗りやすく、回せば/ンチもある。1台目はファイナルをショート化して、より伸びやかなフィールを楽しんでいました。ヘタリを感じて手放しましたが、すぐに恋しくなりましたね」と松田



Tsugio Matsuda

国内トップのフォーミュラー、ツーリングカーの両カテゴリで2度のチャンピオンに輝いた日産系トップドライバー。2025年は「#24リアライスコアポレーションアドバンZ」でスーパーGTを、「#25raffinee」日産メカニックチャレンジZ NISMO GT4」でS耐を戦う

とはしばらく距離が空いたのだが、転機はRZ34型フェアレディZの開発への参画だった。さらに22年には、GT500クラスの車両もGT-RからZへとスイッチ。Zとの新たな関係が始まったことで、若かりしころ夢中になった特別なZを買い戻したい思いが再燃。そして、21年に購入したのが、今回取材をした白の380RSだ。

「乗る時間は限られていますが、走り出すとクルマ好きの心を揺さぶる魂のようなものがあり、特別なクルマであることを再確認させてくれます」。

コレクションとして手に入れたため、サーキットを走ることはないが、シートに座れば、過去の思い出も蘇る。そんな時間が今の松田には大切な(文中敬称略)

RZ34&Z34×BRIDE

走りの欲求を満たすパートナー

クルージングを楽しむ、スポーツ走行を楽しむ。走りのスタイルは多種多様だが、どのようなシーンであっても欠かせないのはドライバーの欲求を満たすシート性能だ。スポーツシートのスペシャリティであるブリッドなら、快適性や質感を引き上げるアダルトコンフォートからホールド性と安全性に特化したリアルスポーツまで、多彩なニーズへ応えるシートラインアップが揃えられている。

PHOTO / 芝 修 TEXT / 村田純也

FAIRLADY Z INTERIOR SELECTION

問ブリッド tel 052-689-2611 <http://bride-jp.com>



保安基準の規定をクリアした大型ヘッドガードモデル

Z34

【ゼロRSプラス】

XERO RS PLUS

万が一の際にドライバーの頭部を守るヘッドガードは、モータースポーツに使用されるフルバケットシートで主流となっている安全装備だ。ブリッドではヘッドガード付きモデルのゼロシリーズを4モデル展開しているのだが、これまで保安基準適合モデルとしてストリートユースもこなせるのはヘッドガードが小ぶりのCS、VSのみだった。しかし、競技専用モデルに位置づけられていた大型ヘッドガード採用のRSがリニューアルされ、保安基準適合のRSプラスとしてデビュー。保安基準第22条関連の「座席による審査」に加え、第21条関連の「視認等による審査」の試験に臨み、座席の強度や基準アポイントがヘッドガードより前方にあり180度以上の視界が確保されている等、規定をクリアしている。なお、保安基準適合にあたってカバーリングされることとなったヘッドガードにはブリッドの刺繍ロゴがあしらわれており、サイドウインドウ越しに高まるレーシーさも上々だ。

SPEC&PRICE

XERO RS PLUS ¥195,800～¥264,000

○FRP製シェルバリエール(GFRP) / スーパーアラミド製ブラックシェル (AFRP) ○全3色(グラデーションロゴ/ブラック/レッド) ○難燃生地 ○保安基準適合モデル ○FIA規格取得モデル ○日本製 ○着座センサー搭載(座面部)
 ※車種によっては対応できない場合があります。○FRP製重量:約8.5kg(参考数値) / スーパーアラミド製重量:約8.5kg(参考数値)

ZETA IV

進化を重ねて鍛え上げられた熟成モデル

ブリッドのフルバケットシートを代表するのが、進化に進化を重ねて熟成されてきたジータⅣだ。日本人の体型にフィットするシェル形状で、ストリートからモータースポーツまでシーンを問わずにドライバーを支えていく。

RZ34


シェルにはFRP、スーパーアラミド製の2タイプを設定。ハーフカバー仕様なのでオプションのシートバックプロテクターは不要だ



大型ヘッドガードは安全性を高めるだけでなく、コーナリング時の視線ブレも抑制。スポーツ走行時の頼もしい味方となってくれる



腰まわりをしっかりと包んでくれるサイドサポートには上質なキルティングステッチがあしらわれている。機能美が際立つ注目作だ



RSプラスは大型ヘッドガードに加えてサイドサポートも深い。最上級のホールド性と安全性でドライバーを包み込んでいく

ヌバック調の高触感表皮材でインテリアを洗練

RZ34


意匠線を多様するため、シンプルなシングルステッチを採用。インテリアカラーに合わせてやすいグレー基調で上品に仕上げられている



生地の方によって変化する明暗の異なるグレーをベースに、サイドにはブラックを配色することでシックな雰囲気仕上げていく



ワンタッチリクライナーやアームレスト対応などの機能性はベースモデルを踏襲。高触感PVC表皮は敷心地がよく、耐久性にも優れる



断裁パターンや意匠線など、シックな雰囲気仕上げるようデザイン。PVC表皮のため汚れにくく、メンテナンスに優れる点もグッドだ

Z34

【エルゴスターヌグレ】

ERGOSTER NUGRAIN

スポーツ&スペシャリティとして、走りや質感の双方が高められているZ34&RZ34。そんなアダルトスポーツを一層上質に引き立てていく注目のスポーツシートが、ヌバックのような触感を再現したしっとり感と、さらっとした質感を兼ね備えたPVC表皮「ヌグレ」を採用するエルゴスター・ヌグレだ。このアイテムはインテリアの高級感を求めるユーザーに向けて新たにスタートしたブリッドブランドのハイエンドシリーズ第一弾となるのだが、単に生地を上質なもののへ変えただけではなくエルゴスターのシート形状に合わせて縫製パターンも徹底吟味。背面から座面へつながる躍動的な意匠線を採り入れることによって、従来のスポーツシートで生じやすかったのっぺり感が完全払拭された。スポーティなエッジを効かせたショルダーサポート、乗降性の向上や疲労軽減を果たすフラットな座面などといったエルゴスターのシート性能はそのままに、高級感を突き詰めた逸品となっている。

SPEC&PRICE

ERGOSTER NUGRAIN ¥176,000～¥194,700

○ヌバック調高触感PVC表皮 ○全1色(チャコールグレー) ○難燃生地 ○シートヒーター搭載モデル有り(12V専用) ○保安基準適合モデル ○日本製 ○着座センサー搭載(座面部) ※車種によっては対応できない場合があります。○重量:約15.0kg(参考数値) ※シートヒーターは製造の際に内蔵するため、購入時に有りor無しを選択してください。別売りの専用有段式アームレストが装着可能。NUGRAIN®(ヌグレ)は、アキレス株式会社の登録商標です。

有段式アームレスト(NUGRAIN専用)¥23,100

○ヌバック調高触感PVC表皮 ○難燃生地 ○日本製 ○右用、左用有り ○重量:約1.0kg(1個あたりの重量・参考数値)

※お好みの角度に調整可能。NUGRAIN®(ヌグレ)は、アキレス株式会社の登録商標です。

edirb NISHIJIN CARBON

最上級の質感とホールド性を発揮

エディルプには、日本の伝統的工芸品である西陣織の技術で織り上げた西陣カーボンを採用するハイエンドモデルがある。写真の162NCは、フルバケに匹敵するホールド性とリクライニング機能を兼ね備えた逸品だ。





日常での快適性を確保しつつ、スポーツ性を引き上げたセントラル20のRZ34。上質な乗り味の大人のスポーツカーに仕上げられた

SPEC

Z-SPORT RZ34
 フロントカーボンスプリッター
 カーボンガーニーフラップ
 ワイドクリアビュードアミラー
 フューエルキャッププロテクター
 エキゾーストシステム
 サスペンションキット
 サブフレームリジッドカラーセット
 フロントモノブロック6POTブレーキキット
 リアモノブロック4POTブレーキキット
 リクライニングシート
 サブメーターフード
 メインメーターフード
 センターアームレスト
 キッキングプレート
 エアコンコントロールパネル
 センタールーバートリム
 メーターインナートリム
 ドアスイッチパネル
 センターコンソール
 サブメーターリング
 トランクパネル
 デフロスターパネル
 サイドブレーキレバー
 MTシフトブーツ
 グローブボックス
 ダッシュボードフィニッシャー
 フロントピラー
 スマートキープロテクター
 M.F.D.プロテクター
 カーボンコンベクションステアリングDシェイプ
 ニーパッド



視界が広がるワイドミラーは防眩効果のあるブルーレンズを採用。さりげなくスタイルアップできる3分割のフロントカーボンスプリッターも用意



4本出しのエキゾーストは規定内の音量ながらアクセルを踏み込むとスポーティな美音を奏でる。こもり音を低減しているのも特徴だ



ルーフ形状に合わせてウイング中央にくぼみを持たせたカーボンガーニーフラップ。高速での安定性を高められる



サーキット走行時の必需品ともいえるモノブロックブレーキは、剛性感のあるペダルタッチを実現。伝統のタデ2連、4本出しテールを採用したマフラーも人気。車検対応品だ



ステアリングやメーターフード、ダッシュボードフィニッシャーなど、上質なインテリアを実現するアイテムが揃う。フル交換がベストだが、ワンポイントで取り入れるのもアリ



インテリアはステアリング/シフトノブ/サイドブレーキに採用されたレッドレザーがVersion NISMOとの識別点。松田の愛車はノーマルをキープしている

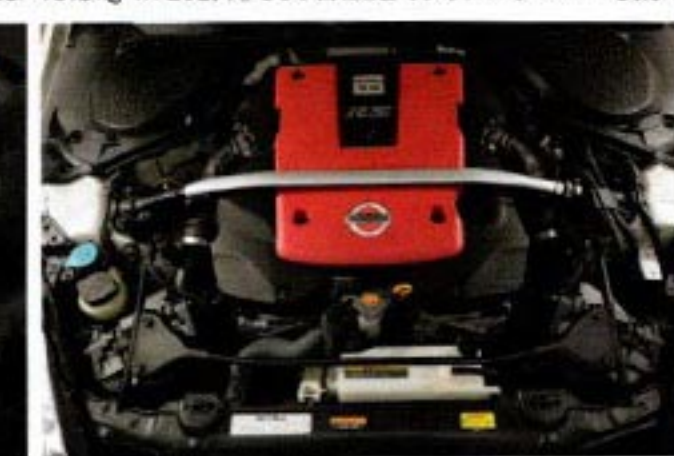


カスタムはタイヤとホイールをADVAN Racing BEYONDとADNAN NEOVA AD09に交換。足まわりにはNISMO仕様のオーリンズ車高調を組み、インテリアはBRIDE ZETA IVを運転席と助手席を装着する程度。ノーマル部品も保管する



勝つために生まれた特別な3.8ℓユニット

スーパー耐久シリーズのST1クラス(当時)で勝つために開発した専用エンジン。市販車に搭載されるVR35HRエンジンをベースに、ストロークを7mm伸ばして3.6ℓまで排気量を拡大。ピストン/コンロッド/クランク/カムシャフトなども専用設計品が着られた。出力は37ps/4kg-mアップの350ps/40.5kg-mを発揮。300台限定でシリアルナンバーも刻印



NISMO 400Rと肩を並べるコンプリートカーの最高峰



「レーシングカーに使われているのと同じエンジンを搭載したコンプリートカーながらSTD仕様プラス約100万円のプライスはまさにバゲン。トルクが豊かで乗りやすく、回せばVレブもある。1台目はファイナルをショート化して、より伸びやかなフィールを楽しんでいました。ヘタリを感じて手放しましたが、すぐに恋しくなりましたね」と松田



Tsugio Matsuda

国内トップのフォーミュラー、ツーリングカーの両カテゴリで2度のチャンピオンに輝いた日産系トップドライバー。2025年は「#24リアリスコーポレーションアドバンZ」でスーパーGTを、「#25raffinee日産メカニックチャレンジZ NISMO GT4」でS耐を戦う

とはしばらく距離が空いたのだが、駆機はRZ34型フェアレディZの開発への参画だった。さらに22年には、GT500クラスの車両もGT-RからZへとスイッチ。Zとの新たな関係が始まったことで、若かりしころ夢中になった特別なZを買い戻したい思いが再燃。そして、21年に購入したのが、今回取材をした白の380RSだ。

「乗る時間は限られていますが、走り出すとクルマ好きの心を揺さぶる魂のようなものがあり、特別なクルマであることを再確認させてくれます」。

コレクションとして手に入れたため、サーキットを走ることはないが、シートに座れば、過去の思い出も蘇る。そんな時間が今の松田には大切な(文中敬称略)